

執筆者

- 川口 良……………言語文化研究科教授
柯 愛霞……………言語文化研究科博士課程院生
趙 伸……………北京外国語大学博士後期課程
藤井 仁奈……………文学部講師
森本 奈理……………文学部専任講師

<編集後記>

本号の副題「～日本語研究は今～」について、ご説明したい。本号では図らずも、それぞれ異なる視点から日本語を研究する三論文がそろった。川口論文は、豊富な資料に基づいて語用論の視点から、「日本語の今」を鋭い語感で捉えている。柯論文が対象としている「唐話纂要」(岡島冠山(1674-1728))は、江戸時代の中国語会話入門書である。柯論文は、この貴重な資料に対して、精密な分析を行い、300年前の日本語・中国語の実態を知るための重要な手掛かりを与えてくれる。趙論文で感銘を受けるのは、日本語心理動詞の、動詞分類の中でのあるべき位置づけについて、徹底的に追求しようとする、筆者の気迫である。

若い英文学者お二人が、それぞれの独自の文学上の問題意識を基盤に、のびのびと、臆すことなくかつ筋道を立てて、独自の議論を展開している。たいへん喜ばしいことである。

読後のご批評を是非、紀要委員会にお寄せいただきたい。小誌が、研究者の方々の、熱い論争の場として役に立つことを、願ってやまない。

岸田 直子

文教大学大学院言語文化研究科紀要 第2号

2016年3月16日印刷・発行
編集 文教大学大学院言語文化研究科
代表者 白井 啓介
事務室 岡山 智美
発行 文教大学大学院言語文化研究科
〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島3337
TEL 048 (974) 8811 内線2301
印刷 コスモプリント株式会社